

平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人お茶の水女子大学

1 全体評価

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって真摯な夢の実現される場として、すべての女性はその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に自己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを深化させることを目指している。第2期中期目標期間においては、21世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、教育の質保証システムを強化するため、カラーコードナンバリングを新たに導入し、カリキュラム構成上の位置づけや達成目標に照らした水準の違いを明示しているほか、グローバル理工学副専攻において、異なる分野の学生によるグループ研究を特色としたカリキュラムに基づく教育を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間において、次のような「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

- 国立女子大学ならではの重点研究領域として「グローバル女性リーダー育成研究機構」を設置するとともに国内外から女性研究者を招へいし、女性のリーダーシップ育成と男女共同参画社会の実現に貢献する研究教育を通じて、世界で活躍できる女性リーダーの育成機能を強化する計画を定めている。

平成27年度は、「グローバル女性リーダー育成研究機構」を新設するとともに、同機構の下に、“リーダーシップ”、“国際協力”、“比較日本学”を重点研究領域とする「グローバルリーダーシップ研究所」と“ジェンダー研究”を重点研究領域とする「ジェンダー研究所」を置いている。また、ジェンダー研究・日本研究で優れた実績のある外国人研究者2名を特別招へい教授として迎え、国際ネットワークの構築、国際共同研究を推進している。

- 奈良女子大学と連携し、女性の特性を生かした新たな理工系研究・教育の在り方を開発することを目的に、女子の理系進学を阻害している要因を取り除き、女性に適した新たな理科教育の方法を中等教育課程・高等教育課程それぞれに即して確立するとともに、「生活工学」分野においてイノベーションを先導する女性リーダーの育成を行う計画を定めている。

平成27年度は、「理系女性教育開発共同機構」を設置し、キックオフシンポジウムの開催、中等教育・理数カリキュラム開発のための附属学校と連携した調査研究、進路選択に関する意識調査等を行っている。また、「大学院人間文化創成科学研究科生活工学共同専攻」を平成28年度に開設するため、入試、広報活動、教育課程の整備を進めている。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

第3期中期目標期間における大学のビジョンとして「人が一生を通じて健康で心豊かに過ごすための研究・開発による活力ある社会環境の創出」を掲げ、健康科学・人間発達科学分野における国際的研究拠点を構築するために、平成28年度に「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を新設することとし、人的資源の戦略的・重点的配分を行っている。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ ガバナンス機能強化に向けた教員組織改革

教員組織改革により、教員組織を一体化することで学長のリーダーシップに基づく教員配置が可能となり、「グローバル女性リーダー育成研究機構」等の教育研究組織の再編が進められるなど、機能強化のための人的資源の再配分や全学的観点からの戦略的取組を促進させている。

○ 学長のリーダーシップのさらなる発揮に向けた補佐体制の強化

総括副学長を置いて学長補佐体制を強化するとともに、学校教育支援・社会連携担当の副学長を置き、「文京区立お茶の水女子大学こども園」開園に向け、区との連携を推進するなど、学長のリーダーシップにより学外機関との連携を進める体制を強化している。

○ 女性の管理職への積極的登用

女性が働きやすく、職能が発揮できる体制を整備するとともに、大学全体として男女共同参画の推進に取り組む姿勢を学内外へ積極的に発信しているほか、女性の管理職への登用を推進した結果、管理職全体に占める女性の割合は目標（30%）を大きく上回る42.2%となっている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 寄附金獲得に向けた全学的な体制の構築

募金手続きの利便性を高めるため、ウェブサイト上でクレジットカードにより募金ができるシステムを導入している。また、3名のファンドレイジング担当の学長特命補佐を採用するとともに、学長戦略機構に「チーム未来開拓プロジェクト」を設置し全学的な体制を構築するなど、寄附金の増加に向け、積極的に取り組んでいる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 体系的な学習目標の達成支援

学修情報システム「alagin」の機能を拡充し、教育の質保証システムを強化するため、カラーコードナンバリングを新たに導入し、カリキュラム構成上の位置づけや達成目標に照らした水準の違いを視覚的に明示している。

○ 異分野融合を中心としたグローバル教育の推進

グローバル理工学副専攻において、異なる分野の学生によるグループ研究PBTS（Project Based Team Study）を特色として基盤力強化、グローバル力強化、チーム力強化を図るカリキュラムに基づく教育を推進しており、講義やグループ研究は英語で行い、学生を国内外の研究機関、企業等に3か月程度派遣して研修を実施している。

○ 健康科学・人間発達科学におけるイノベーションの創出

乳幼児から高齢者までの心身の健康と生活向上に資する研究・開発と教育を推進するため「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」新設に向けて準備を進めるとともに、「こころ」と「からだ」の健康イノベーション創出に向けた研究力強化のために、同機構の下に「ヒューマンライフイノベーション研究所」及び「人間発達教育科学研究所」を設置する準備を進めている。